

「女性のチャレンジ賞」受賞

内閣府で実施している、企業・NPO法人での活動、地域活動などにチャレンジすることで輝いている女性個人や団体を表彰する、「女性のチャレンジ賞」の今年度の受賞者に、岡詩子さん（ハンサムリネンKOMO代表）が選出されました。

岡さんは、大学進学を機に上京、就職したのちに平成23年に鶴田町に帰郷。その後「ハンサムリネンKOMO」を起業したことをきっかけに、つるた街プロジェクトを立ち上げ、「つるた街マーケット」や、「星空のキャンドルナイトin鶴田」などさまざまなイベントを企画・実施。イベントだけでなく、フリーペーパーやSNSを使った情報発信にも取り組んでいます。そのような活動を評価され、今年度の受賞に至った岡さんにインタビューしました。



PROFILE

岡詩子さん（ハンサムリネンKOMO代表）
平成24年に「つるた街プロジェクト」を立ち上げ、鶴田町が好きという気持ちを原動力にさまざまなイベントを企画、実施。
（表彰歴）
青森県いきいき男女共同参画社会づくり表彰女性のチャレンジ賞受賞（2018）

Q 「女性のチャレンジ賞」受賞について、どのように感じていますか。

A 私としては、やりたいことをやりたいようにやってきただけなので、このような賞を頂いて正直驚いています。賞状には私の名前が載っていますが、私が賞をもらったというよりは、私をサポートしてくれた周りのメンバーが認めてもらえたような気がして、そういう部分で嬉しかったです。つるたのメンバーは一人一人がすごい人たちなのですが、皆さん恥ずかしがり屋なので結果的に私の名前が広まってしまっています。そういうすごい人たちがいることもどんどん外に発信していきたいです。

Q 帰郷してから約1年でつるた街プロジェクトを立ち上げ、鶴田町が好きという気持ちを原動力にさまざまなイベントを企画、実施。この活動を通じて、つるた街プロジェクトのメンバーは一人一人がすごい人たちなのですが、皆さん恥ずかしがり屋なので結果的に私の名前が広まってしまっています。そういうすごい人たちがいることもどんどん外に発信していきたいです。

るプロを立ち上げていますが、そういうすごい人たちをどうやって集めたのでしょうか

A 私が集めた訳ではなく、元々ものづくりが上手なママさんの集まりがあつて、その集まりの中に知ってる人がいたので、私も参加したのが始まりです。私は当時から販売をしていたので、ものづくりと販売ができる人が繋がって商品を販売するようになりました。それからその繋がりがどんどん新しい繋がりを呼んで、人数も増えたときに、「鶴田町っていいよね」という話が出てきたのがカタチになって、つるた街という団体になりました。なので、メンバーを私が集めたんじゃないくて、自然と集まったという感じですね。

Q さまざまなイベントを企画・開催していますが、

地域おこしを意識しながら行っているのでしょうか。

A そもそも町おこしをしようとかは考えていません（笑）。私が面白そうだな、やってみたいなと思うことをやっていたら今回の受賞になったのですが、イベントなどについても同じような感じですね。最近では、つるたのメンバーも個々の活動が忙しくなってきたり、ミティンクも集まらなくてSNSを利用して話し合いをするのが多くなりました。なので、実は今年はキャンドルナイトはやめようかという話になっていました。でも、去年もそうでしたが、来てくれた人たちの楽しそうな笑顔を見ると、こっちは嬉しくなるし、達成感もすごくありました。なので、今年は時間がないでもイベントを開催できるようにやり方を変えての開催にしました。鶴田町が好き



△今年度も開催されたつるた街マーケット



△昨年のキャンドルナイトの様子

Q 最後に、これから新しくチャレンジしたいことなどがあれば教えてください。

A 特に今こういうのをやりたい！というのはないんですが、今のつるたプロをそのままのカたちで残していきたいというの思っています。つるたのメンバーが減っている訳ではありませんが、個々の仕事が忙しくなったり、家族が増えたりと、つるたプロ発足のようメンバーが集まってミティンクというのが難しくなっています。それはどうしようもないことですが、新しいことに取り組まなくても、今のカタチを継続して残していこうというのもチャレンジなんじゃないかなと私は思います。何かチャレンジしたいけど、一人だとどうしたらいいのか分からないという人がやりたいことにチャレンジできる場所が必要だと思うので、そういう人たちにもつるたプロという枠を使ってもらっても構わないと思っています。これからは肩に力を入れすぎずに、やりたいことを自分のペースで取り組んでいきたいですね。